



# 上川井だより

## 5月号

平成 30年 5月1日  
横浜市立上川井小学校  
校長 山田 アイ子

## 「～したい」から「～しよう」へ

校長 山田 アイ子

先日、新学習指導要領の全面実施に向けた講演会に参加する機会がありました。その中で、最も心に残ったことは「子どもの意識が『たい』から『よう』へと変わっていくような授業改善が必要である」でした。例えば、子どもの「本を読みたい」を「本を読みましょう」に、「書きたい」を「書きましょう」に、子どもの意識を醸成する授業が新学習指導要領の「言葉に着目した主体的・対話的で深い学び」に繋がっていくという内容でした。その講演を聞き、深く納得すると同時に、それは学習だけでなく、子どもたちの日々の生活においても同じことが言えると思いました。

新学期が始まり約一月、それぞれのクラスで、子どもたちの学習や生活の目標が教室や廊下に掲示されています。「〇〇ができるようになりたい」「〇〇を頑張りたい」と、子どもたちの意欲が伝わってきます。その願いを願いで終わらせることなく「〇〇ができるようになった」という喜びや次への意欲に繋げるには、何をすればよいかまでを考えることの大切さを感じました。

私が学級担任をしていた頃も、いつも学期の始めには目標を立てました。例えば、ある子は「自分は手を挙げて発言することが苦手だから、もっと積極的に発言したい」と目標を立てました。また、「友達と仲良くしたい」「友達をたくさんつくりたい」と、目標を掲げる子もいました。「成績を上げたい」とか「Aの数を増やしたい」と、自分の気持ちをストレートに目標にする子もいました。そんなとき、私はいつも言いました。「目標を立てたら終わりになっていませんか」「目標を達成するための具体的な手立てをたてないと、目標は目標で終わってしまいます」と、繰り返し話しました。

積極的に発言することが苦手な自分はどうしたら、発言が増えるのだろうか。どうしたら恥ずかしい気持ちを抑えて発言できるようになるのだろうか。誰しも成績が上がったら嬉しい、どうしたら上がるのだろうか…「神様をお願いしたり、呪文のように唱えたりしたら叶うのか」と、冗談を言ったこともありました。

「一日に一回は手を挙げよう」「毎日、算数の時間にやったことを30分と決めて復習をしよう」「友達をたくさんつくるためには、自分から挨拶をしよう」と決めるなど、具体的な手立てを考え、その手立てが目標を達成するために効果的だったかどうか自分で振り返ってみる。効果的でなければ、学期の途中であっても、その手立てを変えることも必要…そんな話もしました。

「〇〇ができるようになりたい」「こんなことをしたい」「こんな人になりたい」と、たくさんの思いを持っている子どもたちの思いを、思いだけで終わらせないためには「〇〇しよう」と、一步を踏み出すことの大切さを改めて感じました。小さくても「〇〇しよう」を、一つずつ積み重ねることが「〇〇ができるようになった」に、続いていると思います。子どもたちが一步を踏み出せるように、丁寧な支援を重ねていきます。

私は、学校便り4月号で「みんなの50周年にしたい」と書きました。私自身にも上記のことが言えると思います。みんなの50周年にするためには、地域とのつながりが大切です。今、上川井小学校に在籍する136人の子どもたち一人一人が未来に向けて自分の思いをもち、未来につなげていける50周年…そのためにやらなければならないこと、できることを考えながら取り組んでいきます。